

# 複素数・図形

## 例題 1

0 でない 2 つの複素数  $\alpha, \beta$  が  $\alpha^2 - 2\alpha\beta + 4\beta^2 = 0$  を満たしている.

- (1)  $\frac{\alpha}{\beta}$ ,  $\left|\frac{\alpha}{\beta}\right|$ ,  $\arg \frac{\alpha}{\beta}$  を求めよ.
- (2) 原点を O, 複素数  $\alpha, \beta$  を表す点をそれぞれ A, B とするとき,  $\triangle OAB$  はどのような三角形か.

## Point.

複素数の関係式が与えられて, それらが作る図形を求める問題では,  $\frac{\alpha}{\beta}$ などを調べて, それらの複素数の位置関係を調べるとよい. 今回の問題は (1) で OA と OB の長さの比となす角を調べている.

## ✓ 解答

- (1)  $\alpha^2 - 2\alpha\beta + 4\beta^2 = 0$  の両辺を  $\beta$  で割ると,

$$\left(\frac{\alpha}{\beta}\right)^2 - 2\left(\frac{\alpha}{\beta}\right) + 4 = 0$$

であるから, この 2 次方程式を解いて,

$$\frac{\alpha}{\beta} = 1 \pm \sqrt{3}i$$

と求まる. 絶対値と偏角は極形式にすればすぐにわかる.

$$1 \pm \sqrt{3}i = 2 \left( \frac{1}{2} + \frac{\sqrt{3}}{2}i \right) = 2 \left( \cos \frac{\pi}{3} + i \sin \frac{\pi}{3} \right)$$

であるから,  $\left|\frac{\alpha}{\beta}\right| = 2$ ,  $\arg \frac{\alpha}{\beta} = \pm \frac{\pi}{3}$

- (2) (1) より  $\frac{OA}{OB} = \left|\frac{\alpha}{\beta}\right| = 2$  であるから,  $OA:OB = 2:1$ . また,  $\arg \frac{\alpha}{\beta} = \pm \frac{\pi}{3}$  より  $\angle AOB = \frac{\pi}{3}$  である. 以上より,  $\triangle OAB$  は B を直角とする  $\angle AOB = \frac{\pi}{3}$  の直角三角形 (図を描けばわかる) である.

## 問 1

複素数平面上の原点とは異なる点  $A(\alpha)$  と  $B(\beta)$  が  $\alpha^2 + 2\beta^2 = 2\alpha\beta, |\alpha - \beta| = 2$  を満たしているとする. このとき,  $\triangle OAB$  の面積を求めよ.

### 例題 2

複素数平面上の相異なる 3 点  $A(\alpha)$  と  $B(\beta)$  と  $C(\gamma)$  を考える.

- (1)  $\alpha = 2 + 2i$ ,  $\beta = 3 + 4i$ ,  $\gamma = 5 + 3i$  のとき,  $\angle CAB$  の大きさを求めよ.
- (2)  $2\alpha - (1 - \sqrt{3}i)\beta = (1 + \sqrt{3}i)\gamma$  を満たすとき,  $\triangle ABC$  はどのような三角形か.

### Point.

3 つの複素数  $A(\alpha)$  と  $B(\beta)$  と  $C(\gamma)$  に対して,  $AB$  と  $AC$  がなす角は

$$\angle CAB = \arg(\beta - \alpha) - \arg(\gamma - \alpha) = \arg \frac{\beta - \alpha}{\gamma - \alpha}$$

で表される.

### ✓ 解答

- (1)  $\angle CAB = \arg \frac{\beta - \alpha}{\gamma - \alpha} = \arg \frac{1 + 2i}{3 + i} = \frac{1}{2} + \frac{1}{2}i = \frac{1}{\sqrt{2}} \left( \cos \frac{\pi}{4} + i \sin \frac{\pi}{4} \right)$  より,  $\angle CAB = \frac{\pi}{4}$
- (2) とりあえず展開すると,  $2\alpha - \beta + \sqrt{3}\beta i = \gamma + \sqrt{3}\gamma i$  である.  $\alpha - \beta, \gamma - \beta$  の形を作るために, 両辺から  $\beta$  を引いて整理すると,

$$2(\alpha - \beta) = \gamma - \beta + \sqrt{3}(\gamma - \beta)i = (\gamma - \beta)(1 + \sqrt{3}i)$$

であるから,

$$\frac{\alpha - \beta}{\gamma - \beta} = \frac{1 + \sqrt{3}i}{2} = \cos \frac{\pi}{3} + i \sin \frac{\pi}{3}$$

が成り立つ. よって,  $\angle ABC = \frac{\pi}{3}$  で, さらに  $BA:BC = 1:1$  なので  $BA=BC$  がわかる. したがって,  $\triangle ABC$  は正三角形である.

### 問 2

複素数平面上の相異なる 3 点  $A(\alpha)$  と  $B(\beta)$  と  $C(\gamma)$  を考える.

- (1)  $\alpha = 1 + i$ ,  $\beta = \sqrt{3} + 1 + 2i$ ,  $\gamma = 1 + 3i$  のとき,  $\angle BAC$  の大きさを求めよ.
- (2)  $\alpha = \gamma + \sqrt{3}i(\gamma - \beta)$  を満たすとき,  $\triangle ABC$  はどのような三角形か.

### 問 3

複素数平面上の相異なる 3 点  $A(\alpha)$  と  $B(\beta)$  と  $C(\gamma)$  について,  $\alpha^2 + \beta^2 + \gamma^2 - \alpha\beta - \beta\gamma - \gamma\alpha = 0$  が成り立っている. このとき,  $\triangle ABC$  はどのような三角形か.

### Hint.

条件が  $\alpha, \beta, \gamma$  に関して対称なので, 多分答えは正三角形である. とりあえず, 2 つの辺の長さの比と角度を求めるために,

$$\square - \bigcirc, \triangle - \bigcirc$$

の形を作るように変形してみよう.

# 複素数・1の $n$ 乗根

## 例題 3

複素数平面において、単位円に内接する正六角形を考え、頂点を反時計周りに  $z_1, \dots, z_6$  とする。

- (1)  $\alpha = \cos \frac{\pi}{3} + i \sin \frac{\pi}{3}$  とするとき、 $z_2, z_3, \dots, z_6$  を  $z_1$  と  $\alpha$  で表せ。
- (2)  $z_1 + z_2 + \dots + z_6$  の値を求めよ。
- (3)  $n$  を自然数とすると、 $x^n - 1 = (x - 1)(x^{n-1} + \dots + x + 1)$  と因数分解できることを示せ。
- (4)  $(1 - \alpha)(1 - \alpha^2)(1 - \alpha^3)(1 - \alpha^4)(1 - \alpha^5)$  の値を求めよ。

## Point.

1の $n$ 乗根は

$$\cos \frac{2\pi}{n} + i \sin \frac{2\pi}{n}$$

と表される。偏角を見れば分かる通り、これは円を $n$ 等分する複素数である。この問題の $\alpha$ は1の6乗根であるから、偏角は...

## ✓ 解答

- (1) 各  $z_k$  は正六角形の頂点であるから、円周を6等分する。よって、 $z_1$  を  $\frac{\pi}{3}$  ずつ回転させれば他の頂点を表せる。 $\alpha = \cos \frac{\pi}{3} + i \sin \frac{\pi}{3}$  であるので、 $z_k = \alpha^{k-1} z_1$  ( $k = 2, 3, 4, 5, 6$ ) である。
- (2) (1) より、 $z_1 + z_2 + \dots + z_6 = z_1 + \alpha z_1 + \alpha^2 z_1 + \alpha^3 z_1 + \alpha^4 z_1 + \alpha^5 z_1$  であるから、等比数列の和の公式を用いて、

$$z_1 + z_2 + \dots + z_6 = z_1 \frac{z_1(1 - \alpha^6)}{1 - \alpha} = 0$$

- (3) 等比数列の和の公式より、 $1 + x + \dots + x^{n-1} = \frac{x^n - 1}{x - 1}$  が成り立つので、両辺に  $x - 1$  をかけて

$$(x - 1)(x^{n-1} + \dots + x + 1) = (x - 1) \frac{x^n - 1}{x - 1} = x^n - 1$$

が成り立つ。

- (4)  $\alpha$  は1の6乗根であるから  $\alpha^k$  もそうである。よって、因数定理から

$$z^6 - 1 = (z - 1)(z - \alpha)(z - \alpha^2)(z - \alpha^3)(z - \alpha^4)(z - \alpha^5)$$

一方で、(3) より  $z^6 - 1 = (z - 1)(z^5 + \dots + z + 1)$  であるから、

$$(z - 1)(z^5 + \dots + z + 1) = (z - 1)(z - \alpha)(z - \alpha^2)(z - \alpha^3)(z - \alpha^4)(z - \alpha^5)$$

が成り立つ。両辺を  $z - 1$  で割ると  $z$  の恒等式

$$(z^5 + \cdots + z + 1) = (z - \alpha)(z - \alpha^2)(z - \alpha^3)(z - \alpha^4)(z - \alpha^5)$$

が得られるので、ここに  $z = 1$  を代入すれば、

$$(1 - \alpha)(1 - \alpha^2)(1 - \alpha^3)(1 - \alpha^4)(1 - \alpha^5) = 6$$

#### 問 4

複素数平面において、単位円に内接する正  $n$  角形を考え、頂点を反時計周りに  $z_1, \dots, z_n$  とする。

また、 $\alpha = \cos \frac{2\pi}{n} + i \sin \frac{2\pi}{n}$  とする。

- (1)  $z_1 + z_2 + \cdots + z_n$  の値を求めよ。
- (2)  $(1 - \alpha)(1 - \alpha^2) \cdots (1 - \alpha^{n-1})$  の値を求めよ。

## 複素数・図形(解答)

## 問 1

複素数平面上の原点とは異なる点  $A(\alpha)$  と  $B(\beta)$  が  $\alpha^2 + 2\beta^2 = 2\alpha\beta, |\alpha - \beta| = 2$  を満たしているとする。このとき、 $\triangle OAB$  の面積を求めよ。

## ✓ 解答

与えられた関係式  $\alpha^2 + 2\beta^2 = 2\alpha\beta$  を変形すると、 $\alpha^2 - 2\alpha\beta + 2\beta^2 = 0$  となる。 $\beta \neq 0$  であるから、両辺を  $\beta^2$  で割ると、

$$\left(\frac{\alpha}{\beta}\right)^2 - 2\left(\frac{\alpha}{\beta}\right) + 2 = 0$$

これを  $\frac{\alpha}{\beta}$  についての 2 次方程式として解くと、

$$\frac{\alpha}{\beta} = \frac{2 \pm \sqrt{4-8}}{2} = 1 \pm i$$

この結果から、点 A と点 B の位置関係がわかる。

$$\left|\frac{\alpha}{\beta}\right| = |1 \pm i| = \sqrt{1^2 + (\pm 1)^2} = \sqrt{2}$$

$$\arg \frac{\alpha}{\beta} = \arg(1 \pm i) = \pm \frac{\pi}{4}$$

したがって、 $\frac{OA}{OB} = \sqrt{2}$  であり、 $\angle AOB = \frac{\pi}{4}$  である。 $\triangle OAB$  に余弦定理を用いると、

$$AB^2 = OA^2 + OB^2 - 2OA \cdot OB \cos(\angle AOB)$$

$|\alpha - \beta| = 2$  より  $AB = 2$  であり、 $OA = \sqrt{2}OB$  であるから、

$$2^2 = (\sqrt{2}OB)^2 + OB^2 - 2(\sqrt{2}OB) \cdot OB \cos \frac{\pi}{4}$$

$$4 = 2OB^2 + OB^2 - 2\sqrt{2}OB^2 \cdot \frac{1}{\sqrt{2}}$$

$$4 = 3OB^2 - 2OB^2 = OB^2$$

よって、 $OB = 2$  (長さなので正) となり、 $OA = 2\sqrt{2}$  である。 $\triangle OAB$  の面積  $S$  は、

$$S = \frac{1}{2}OA \cdot OB \sin(\angle AOB) = \frac{1}{2} \cdot 2\sqrt{2} \cdot 2 \cdot \sin \frac{\pi}{4} = \frac{1}{2} \cdot 2\sqrt{2} \cdot 2 \cdot \frac{1}{\sqrt{2}} = 2$$

と求まる。

## 問 2

複素数平面上の相異なる 3 点  $A(\alpha)$  と  $B(\beta)$  と  $C(\gamma)$  を考える.

- (1)  $\alpha = 1 + i$ ,  $\beta = \sqrt{3} + 1 + 2i$ ,  $\gamma = 1 + 3i$  のとき,  $\angle BAC$  の大きさを求めよ.
- (2)  $\alpha = \gamma + \sqrt{3}i(\gamma - \beta)$  を満たすとき,  $\triangle ABC$  はどのような三角形か.

## 解答

- (1)  $\angle BAC$  の大きさは  $\arg \frac{\beta - \alpha}{\gamma - \alpha}$  で与えられる.

$$\beta - \alpha = (\sqrt{3} + 1 + 2i) - (1 + i) = \sqrt{3} + i$$

$$\gamma - \alpha = (1 + 3i) - (1 + i) = 2i$$

よって,

$$\frac{\beta - \alpha}{\gamma - \alpha} = \frac{\sqrt{3} + i}{2i} = \frac{(\sqrt{3} + i)(-i)}{2i(-i)} = \frac{-\sqrt{3}i - i^2}{-2i^2} = \frac{1 - \sqrt{3}i}{2}$$

この複素数を極形式で表すと,

$$\frac{1 - \sqrt{3}i}{2} = \cos\left(-\frac{\pi}{3}\right) + i \sin\left(-\frac{\pi}{3}\right)$$

したがって,  $\arg \frac{\beta - \alpha}{\gamma - \alpha} = -\frac{\pi}{3}$  であるから, 求める角の大きさは  $\frac{\pi}{3}$  である.

- (2) 与えられた式  $\alpha = \gamma + \sqrt{3}i(\gamma - \beta)$  を辺 AB, 辺 BC に対応する複素数で表すために変形する.

$$\alpha - \gamma = \sqrt{3}i(\gamma - \beta)$$

$\beta \neq \gamma$  より  $\gamma - \beta \neq 0$  なので, 両辺を  $\gamma - \beta$  で割ると,

$$\frac{\alpha - \gamma}{\gamma - \beta} = \sqrt{3}i$$

この式の絶対値と偏角を考えると,

$$\left| \frac{\alpha - \gamma}{\gamma - \beta} \right| = |\sqrt{3}i| = \sqrt{3} \implies \frac{|\alpha - \gamma|}{|\gamma - \beta|} = \frac{CA}{BC} = \sqrt{3}$$

$$\arg\left(\frac{\alpha - \gamma}{\gamma - \beta}\right) = \arg(\sqrt{3}i) = \frac{\pi}{2}$$

偏角はベクトル BC をどれだけ回転させるとベクトル CA になるかを表すので,  $\angle BCA = \frac{\pi}{2}$  である. 以上より,  $\triangle ABC$  は  $CA : BC = \sqrt{3} : 1$ ,  $\angle C = \frac{\pi}{2}$  の直角三角形である.

### 問 3

複素数平面上の相異なる 3 点  $A(\alpha)$  と  $B(\beta)$  と  $C(\gamma)$  について,  $\alpha^2 + \beta^2 + \gamma^2 - \alpha\beta - \beta\gamma - \gamma\alpha = 0$  が成り立っている. このとき,  $\triangle ABC$  はどのような三角形か.

### 解答

$\beta - \alpha, \gamma - \alpha$  を作る方針で変形する.

$$\begin{aligned}\alpha^2 + \beta^2 + \gamma^2 - \alpha\beta - \beta\gamma - \gamma\alpha &= (\beta - \alpha)^2 + (\gamma - \alpha)^2 + \alpha\beta - \beta\gamma + \gamma\alpha - \alpha^2 \\ &= (\beta - \alpha)^2 + (\gamma - \alpha)^2 - (\alpha^2 - (\beta + \gamma)\alpha + \beta\gamma) \\ &= (\beta - \alpha)^2 + (\gamma - \alpha)^2 - (\beta - \alpha)(\gamma - \alpha)\end{aligned}$$

3 点  $A, B, C$  は相異なるので, 特に  $\gamma - \alpha \neq 0$  である. よって,

$$(\beta - \alpha)^2 + (\gamma - \alpha)^2 - (\beta - \alpha)(\gamma - \alpha) = 0$$

の両辺を  $(\gamma - \alpha)^2$  で割ると,

$$\left(\frac{\beta - \alpha}{\gamma - \alpha}\right)^2 - \left(\frac{\beta - \alpha}{\gamma - \alpha}\right) + 1 = 0$$

である. これを解くと,

$$\frac{\beta - \alpha}{\gamma - \alpha} = \frac{1 \pm \sqrt{3}i}{2} = \cos\left(\pm\frac{\pi}{3}\right) + i\sin\left(\pm\frac{\pi}{3}\right)$$

である (複号同順). これより,  $\frac{AB}{AC} = 1$  すなわち  $AB = AC$  がわかる. また,  $\angle CAB = \frac{\pi}{3}$  なので,  $\triangle ABC$  は **正三角形** である.

# 複素数・1の $n$ 乗根 (解答)

## 問 4

複素数平面において、単位円に内接する正 $n$ 角形を考え、頂点を反時計周りに $z_1, \dots, z_n$ とする。また、 $\alpha = \cos \frac{2\pi}{n} + i \sin \frac{2\pi}{n}$ とする。

- (1)  $z_1 + z_2 + \dots + z_n$ の値を求めよ。
- (2)  $(1 - \alpha)(1 - \alpha^2) \dots (1 - \alpha^{n-1})$ の値を求めよ。

## 解答

- (1) 正 $n$ 角形の各頂点は、 $z_1$ を中心として $\frac{2\pi}{n}$ ずつ回転させたものであるから、

$$z_k = z_1 \alpha^{k-1} \quad (k = 1, 2, \dots, n)$$

と表せる。よって、求める和は初項 $z_1$ 、公比 $\alpha$ の等比数列の和である。

$$z_1 + z_2 + \dots + z_n = z_1(1 + \alpha + \alpha^2 + \dots + \alpha^{n-1})$$

$\alpha \neq 1$  ( $n \geq 2$ の場合)であるから、等比数列の和の公式を用いて、

$$\sum_{k=1}^n z_k = z_1 \frac{1 - \alpha^n}{1 - \alpha}$$

ここで、 $\alpha = \cos \frac{2\pi}{n} + i \sin \frac{2\pi}{n}$ より、ド・モアブルの定理から $\alpha^n = \cos(2\pi) + i \sin(2\pi) = 1$ である。したがって、分子が $1 - \alpha^n = 0$ となるため、

$$z_1 + z_2 + \dots + z_n = 0$$

- (2)  $z^n - 1 = 0$ の解は $1, \alpha, \alpha^2, \dots, \alpha^{n-1}$ であるから、因数定理より

$$z^n - 1 = (z - 1)(z - \alpha)(z - \alpha^2) \dots (z - \alpha^{n-1})$$

と因数分解できる。一方、等比数列の和の公式より

$$z^{n-1} + z^{n-2} + \dots + z + 1 = \frac{z^n - 1}{z - 1}$$

が成り立つ。よって、 $z \neq 1$ において、

$$z^{n-1} + z^{n-2} + \dots + z + 1 = (z - \alpha)(z - \alpha^2) \dots (z - \alpha^{n-1})$$

これは $z$ に関する恒等式であるから、 $z = 1$ を代入しても成立する。 $z = 1$ を代入すると、左辺は $\underbrace{1 + 1 + \dots + 1}_{n\text{個}} = n$ となる。右辺は $(1 - \alpha)(1 - \alpha^2) \dots (1 - \alpha^{n-1})$ となる。したがって、 $(1 - \alpha)(1 - \alpha^2) \dots (1 - \alpha^{n-1}) = n$ である。